

事務事業名	雲南市教育支援センター運営事業	所属部	教育委員会	所属課	キャリア教育政策課			
総合計画体系	政策名	〈IV〉ふるさとを学び育つまち「教育・文化」	所属G	キャリア教育政策G	課長名	川西泰恵		
	施策名	〈26〉学校教育の充実	担当者名	星野翔	電話番号	0854-40-1074 (内線) 2274		
	目的・対象	児童・生徒 意図 基礎基本(知・徳・体)の発達を促し、生き抜く力を身につける。	予算科目	会計	款	大事業	大事業名	教育推進事業
	基本事業	〈078〉困難さを抱える児童生徒への支援の充実		0:150	0:3	中事業	中事業名	おんせんキャンパス運営事業
目的・対象	児童・生徒 意図 個に応じた教育・支援を受ける。	0:510	2:8	業名	事業			

1 現状把握【DO】

(1) 事務事業の概要

① 対象(誰、何を対象にしているのか)	② 意図(対象がどのような状態になるのか)
①不登校児童 ②不登校生徒	個々の実態に合わせた支援により、児童生徒の安心や自信が醸成され、学びや生活に意欲をもってもらう
③ 事業内容(期間限定複数年度事業は全体像を記述)	
事業期間 <input type="checkbox"/> 単年度のみ <input checked="" type="checkbox"/> 単年度繰返(H27 年度～) <input type="checkbox"/> 期間限定複数年度 (年度～ 年度)	様々な事情で学校に行きづらさを感じている児童・生徒に対し、個々の実態に合わせた支援を行い、社会性を身につけるための教育支援センターを運営する。旧温泉小学校を活用し通称「おんせんキャンパス」として、認定NPOとの協働事業により実施している。
④ 主な活動	⑤ これまでの改革・改善経緯
R5年度実績(R5年度に行った主な活動) おんせんキャンパス運営、アウトリーチ(別室登校支援、家庭訪問支援、ユースワーカー派遣)、ユースサポート(高校生年代)、家族サポート(保護者会) ※施設運営体制 受託者 7人役	(この事務事業に関してこれまでのような改革改善をしているか?) H27年度に認定NPOとの協働による取組を開始して以降、臨床心理士の配置、アウトリーチ活動、ICT利活用、高校生や保護者へのアプローチ、学校へのユースワーカー派遣、出席評価の扱い検討など、子どもの学びの個別最適化、自立の実現を目指し取り組んでいる。

(2) 事務事業の指標

成果指標	単位	R3年度(実績)	R4年度(実績)	R5年度(実績)	R6年度(計画)
ア 小中ユース登録者(うちユース)	人	39(1)	63(10)	68(10)	60(10)
イ 登録者のうち学校復帰及び進路実現できた割合(翌年度当初)	%	65.0	76.2	72.6	75.0
ウ					
エ					

(3) 事務事業のコスト

① 事業費の内訳 (R5年度決算)	② コストの推移	単位	R3年度(決算)	R4年度(決算)	R5年度(決算)	R6年度(計画)
報償費 69千円	財源内訳	国庫支出金	千円	12,026	17,130	19,441
需用費 2,495千円		県支出金	千円			
役務費 442千円		地方債	千円			
委託料 39,518千円		その他	千円	21,238	19,948	22,475
使用料及び賃借料 635千円		一般財源	千円			1,243
	事業費計	千円	33,264	37,078	43,159	43,145

2 事後評価【SEE】

① 事業実績における成果	学校へ行きづらさを感じている児童生徒に対し、学習支援や体験活動をはじめ、学校や自宅へのアウトリーチ(訪問支援)や個別相談等個々の状況に応じたきめ細やかな支援に取り組んでおり、利用児童生徒の肯定的な変容(学校やおんせんキャンパスへの利用状況、生活リズム、コミュニケーション等)は高い数値を維持しており、着実に児童生徒の成長に繋がっている。
② 事業実施するうえでの課題	・学校に行きづらさを感じる児童生徒は年々増加する傾向にあり、困り感のある児童生徒や保護者への着実な支援を継続かつ安定的に届けるための体制構築が課題である。 ・多面的、複合的な対策が求められ、より総合的・専門的な観点からの検討や指導を実施できる体制構築が課題である。
③ 課題解決に向けた改革改善等	・アウトリーチ手段の充実や多様なプログラムと居場所づくり、学校や保護者の理解促進(周知)を着実にしながら、学校へ行きづらさを感じるこどもたちへアプローチできる場(手段)を増やしていく。 ・学校や教育委員会だけでなく、他部局や外部(専門)機関等と強固な連携体制を構築する。